

「ユールストック (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

12月のスウェーデンを旅行していると、どこの家の窓辺にも、7つの電球を灯したロウソク型の飾りを目にする。一般の民家だけでなく、事務所にも店舗にも駅の窓辺にも、ほぼ100%ある。「一つの建物に一つ」ではなく「一つの窓に一つ」という感じだ。



「ユールストック」 凍てついた針葉樹林の、北欧の冬景色にとっても似合う。(イエリバーレ郊外)

これは「ユールストック」といって、本来はクリスマスの飾りなのだが、12月から1月までは、ストックホルムでも北極圏でも普通に見られる。スーパーやコンビニでも簡単に手に入り、クリスマスを過ぎると大安売りをして、1台60クローネ(約1000円)で売っていることもある。



ヨックモックのスーパーマーケットにて



「外から見たユールストック」

しかし、日本で使うにはちょっと厄介だ。まずは、スウェーデンと日本ではコンセントの形状がちがう。その変換プラグが必要だ。しかし、スウェーデンでは電圧が240V、日本は100Vなので、このまま日本のコンセントにさしても、ぼんやりとしか光らない。7個の豆電球は直列につながっていて、1個の電球の定格が35V用なのだ。



「コンセントの変換プラグ」

形状の変換は簡単だが、電圧の変換はできない。

あのスウェーデンの窓辺のように、明るく光らせるにはどうしたらいいか、これも「教材研究」になるかも知れない。(つづく)